

学校生活への適応感とアイデンティティ発達の関連

—大学新生と大学4年生を比較して—

○岡崎あや・稲月聡子

(岡山大学大学院社会文化科学研究科)

問題と目的

青年期は、自分とは何かといったアイデンティティを模索する時期であり、現代においては複数のアイデンティティの在り方があると示唆されている(辻, 2004)。中間他(2015)は大学生および高校生に対する調査を実施し、DIDS-J(多次元アイデンティティ発達尺度)によって5つのアイデンティティ・ステータス(拡散型拡散(DD), 早期完了(F), 探索モラトリアム(SM), 達成(A), 無問題化型拡散(CD))を示した。青年期後期に相当する大学生は通常4年間学生生活を送るが、入学して間もない1年生と、卒業を控えた4年生ではアイデンティティ発達の様相が異なると考えられる。そこで本研究では、大学1年生と4年生を対象にアイデンティティ・ステータスの現れ方の差異を検討する。そして、各ステータスによるこれまでの学校生活の適応感の差異について検討する。

方法

参加者 大学生・大学院生・新社会人411名のうち、「大学1年生」318名、「大学4年生」42名、「大学院1年」9名、「新社会人(社会人1年目)」1名と回答した370名を分析対象者とした。ただし「大学4年生」、「大学院1年」、「新社会人(社会人1年目)」を「大学4年生および卒部生」として検討する。

手続き 2024年4月~9月にGoogleフォームによるWeb上調査にて実施した。本研究は、所属学科の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:社_2023_24)。

調査内容 ①大学生用適応感尺度(大久保・青柳, 2015), ②DIDS-J(多次元アイデンティティ発達尺度日本語版)(中間他, 2015)

結果と考察

DIDS-Jの各下位尺度の5項目をそれぞれ平均化した得点を各下位尺度の得点とした。各得点について学年

差を検討したところ、深い探求($t(368)=2.61, p<.01$)の得点において大学4年生および卒部生が大学1年生よりも有意に高かったが、コミットメントの次元や他の探究の次元では得点の学年差は有意ではなかった。

大学1年生 大学1年生のDIDS-Jの尺度得点に対してクラスター分析を行ったところ、中間他(2015)と一部異なり「DD(22%)」、「A(16.4%)」、「SM(37.4%)」、「CD(24.2%)」の4群となり、Fは検出されなかった。次に、1要因の分散分析によって各因子得点の群間差の検討を行い、多重比較を行った(Table1)。Aは、大学生用適応感尺度のすべての下位尺度得点において有意に高かった。SMについては、「被信頼・受容感」においてDD・CDより有意に高かった。

大学4年生および卒部生 大学4年生および卒部生のDIDS-Jの尺度得点に対してクラスター分析を行ったところ、中間他(2015)と一部異なり「DD(17.3%)」、「A(55.8%)」、「未分化(U; 15.4%)」、「CD(11.5%)」の4群となり、未分化クラスター(Luyckx et al., 2008)が検出された。次に、1要因の分散分析によって各因子得点の群間差の検討を行い、多重比較を行った(Table2)。「被信頼・受容感」と「課題・目的の存在」においてAがUより有意に高かった。

総合考察

各学年の人数にはばらつきがあり、アイデンティティ・ステータスの現れ方とその差異を十分に検討できたとはいえない。しかし、各ステータスはこれまでの学校生活の適応感の影響を少なからず受けていることが示唆された。また、大学1年生と大学4年生および卒部生はどちらもコロナ禍を経験しているが、大学4年生および卒部生のクラスターにおいて、未分化(U)が確認された。大学生活において何を経験できなかったことがアイデンティティ発達過程に影響を及ぼしたのかについて今後検討していきたい。

Table1 DIDS-Jのクラスター(大学1年生)による大学生用適応感尺度の各下位尺度の得点と分散分析(F値)および多重比較の結果

	大学1年生				F値 F(3,314)	多重比較
	DD	A	SM	CD		
居心地の良さの感覚	3.75 (0.67)	4.23 (0.51)	3.78 (0.74)	3.65 (0.71)	8.31 ***	A>DD,SM,CD
被信頼・受容感	3.39 (0.73)	4.08 (0.61)	3.67 (0.73)	3.27 (0.77)	15.55 ***	A>SM>DD,CD
課題・目的の存在	3.80 (0.58)	4.25 (0.48)	3.87 (0.69)	3.72 (0.66)	8.10 ***	A>DD,SM,CD
拒絶感の無さ	4.05 (0.71)	4.49 (0.61)	4.11 (0.75)	3.95 (0.71)	6.23 ***	A>DD,SM,CD

*** $p<.001$,** $p<.01$

Table2 DIDS-Jのクラスター(大学4年生および卒部生)による大学生用適応感尺度の各下位尺度の得点と分散分析(F値)および多重比較の結果

	大学4年生および卒部生				F値 F(3,48)	多重比較
	DD	A	U	CD		
居心地の良さの感覚	3.71 (0.43)	3.64 (0.71)	2.95 (1.01)	2.92 (0.62)	3.51 *	
被信頼・受容感	3.22 (0.57)	3.56 (0.80)	2.56 (0.73)	3.11 (0.93)	3.72 *	A>U
課題・目的の存在	3.54 (0.56)	3.93 (0.52)	3.00 (0.68)	3.48 (0.59)	6.36 **	A>U
拒絶感の無さ	3.92 (0.62)	3.99 (0.62)	3.52 (0.75)	3.78 (0.78)	0.94	

** $p<.01$,* $p<.05$